



小池絵未の国際機関探訪

こんにちは！小池絵未です。今回は、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）駐日事務所の古本秀彦（ふるもと・ひでひこ）さんを訪ねました。

◆今回訪問した国際機関

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）

- UNHCR（United Nations High Commissioner for Refugees）は1950年12月14日に設立、翌年1月に活動を開始しました。
- UNHCRは人道的見地から紛争や迫害によって故郷を追われた世界の難民の保護と難民問題の解決へ向けた国際的な活動を先導、調整する任務を負っています。
- 難民の権利と尊厳を守り、全ての人々が庇護を求める権利を行使し、安全に庇護を受け、延いては自主的に帰還、あるいは庇護国に定住、又は第三国定住するために努力します。
- 設立以来60年以上、数千万人以上の生活の再建を支援し、現在は約10,800人の職員が世界約128か国で6000万人以上の人々への支援に従事しています。

◆お話を聞いた方

ふるもと ひでひこ

古本 秀彦さん

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）

駐日事務所 渉外担当官



①いつ頃、国際機関で働こうと思いましたか？

大学の頃から、国際協力分野に興味があり、大学生になった時、漠然と国際的な仕事に憧れを持ち、とにかく海外留学をして米国か英国で勉強しようと思いました。

ただ、英語の勉強だけではつまらないと思い、NGOでボランティアしようと思いました。

色々探して、中南米でウミガメの生態を調べるものか、クロアチアの難民キャンプでのボランティアか、迷った挙げ句、クロアチアにしました。

大学一年生の冬休みの時です。あの時、ウミガメを選んでいたら、自分の人生は全く違ったものになっていたと思います。その後、大学時代は休みの度に旧ユーゴに行き、大学では民族紛争を研究しました。

現地では 子供達と気軽に遊んだり、日本の文化紹介をしたり、ボランティア活動を通じて、難民の人々の力強さや元気さ、希望やユーモアを失わない姿を肌で感じ、こうした魅力に取りつかれてしまいました。

②どのような学歴をお持ちですか？

大学は、駒澤大学法学部政治学科に進学。ゼミでは、主に民族紛争と民主化について学びました。

そして、英サセックス大学で、現代紛争平和学というコースで、大学の時からの課題であった民族紛争と民主化の関連性について研究しました。

③国際機関に入る前はどのようなお仕事をしてきたのですか？

大学院後、すぐに日本のNGOのスリランカ事務所に赴任、その後、東京勤務を経て、国際協力機構(JICA)ジュニア専門員(平和構築分野)になりました。

JICAでは、本部勤務や多数の出張(東ティモール、アフガニスタン等)の他、ウガンダに1年駐在しました。

3年間のJICAの勤務後、広島平和構築人材育成センター(HPC)の立ち上げやコンサルタント会社勤務を経て、2010年にUNHCR イラン事務所へ准プログラム担当官として赴任し、その後、UNHCRイエメン事務所でもプログラム担当官として勤務。

一度日本に戻って、内閣府国際平和協力研究員を経験し、2015年6月からUNHCR駐日事務所渉外担当官として、日本政府や民間企業との渉外、資金調達業務を行っています。

私のキャリアは、NGO勤務の頃から、平和構築支援という戦争に影響を受けた国・地域の支援に関わるものが主でした。

今から思い返すと短絡的でもあるし、生意気な考え方であったなと思いますが、NGOやJICA等日本の組織で働くにつれ、安全管理の観点から本当に支援が必要と思われる現場に日本の組織もなかなか辿り着くことができないということに、残念な気持ちが生まれるようになりました。

このため、いつか国連機関にという思いも時々持つようになっていました。

④どのような方法で国際機関に入りましたか？

JPO試験です。最初に受けたのが、30歳でウガンダにいたときでした。

合格したのは、受験2回目。31歳の年でした。色々と事情があり、実際に国際機関に入ったのはそれから2年後です。

⑤今の仕事について詳しく教えてください。

UNHCRは、難民の保護と支援を任務として与えられています。

難民条約を活動の指針とし、強制的な移動を強いられている人々を適切に保護し、難民の諸権利を守り、緊急事態における支援や中・長期的な難民の自立のための支援、そして、難民状態解決のための支援をします。



その中で、私の仕事は簡単に言うと資金集めです。UNHCRの活動は各国の自発的な拠出金で成り立っています。

日本政府からも、多大な支援を頂いています。例えば、業務では政策レベルの対話を調整し、日本政府と協議する内容を検討したりしますが、最近ですと人道支援と開発援助の連携を促進するための取組に外務省と共に力を入れて取り組んでいます。

また、最近は、昨年9月に国連で採択されたニューヨーク宣言に基づいて開始された取組である包括的難民支援枠組み(Comprehensive Refugee Response Plan)に対し、外務省に多様な状況提供をし、協議をアレンジしつつ、日本政府からの強いサポートをお願いしています。

UNHCRのトップである難民高等弁務官や、ナンバー2である副高等弁務官の訪日もあり、日本政府とのトップレベルの協議にも関わることができるため、やりがいを感じています。

他にも、各国の人道支援状況の情報を追い、個別の国々の支援状況を外務省と共有し、支援の必要性を訴えたりもします。

また、民間セクターとの連携では、ユニクロとUNHCRのパートナーシップに関する業務があります。

ユニクロは2006年から服のリサイクルを始め、更に近年は難民の雇用や難民問題の啓発活動など、様々な形でUNHCRとの連携を拡大してくださっています。

⑥今後のキャリアについてどのようにお考えですか？

今後、しばらくは東京勤務の予定ですが、その後は人道支援のニーズが非常に大きい現場に行きたいです。

例えば、シリア及び周辺国、南スーダンとその周辺国などです。私の今の仕事は基本的に電話とメールでのやりとりですが、その先には、やはり支援を必要としている人が本当にいて、危機的な状況も多く発生しています。

以前、イエメンにいましたが、同地では本当に大変な人道危機が発生しており、それは現在も酷くなる一方です。



⑦国際機関を目指している方にメッセージをお願いします！

1つ目は、興味ある事とかやりたいことを大事にして、勉強やキャリアを進めてほしいことです。

よく、大学や大学院では何を学べば良いでしょう、といった相談を受けます。

また、仕事はどの職種が後に国連の仕事に応募しやすいか、といったことも聞かれます。

しかし、「国連職員になるために」ではなく、何かを続けていったその先に、国連職員としての道という選択肢があるのだと思います。

自分自身が興味を持ち、継続してきたことの積み重ねは本当に大事です。

国連では、本当に多様な背景を持つ人が多様な仕事をしています。国連職員になるということが目的になるのではなく、あくまで国連での仕事も自分自身のやりたいことをやるための手段と捉えていただいた方が良いでしょう。

2つ目に、動機を持つことがとても大事です。「なぜこれをやっているのか」をしっかりと考える事です。

人のためになりたいとか、何かいい事をしたいという綺麗な考えだけでは、長い間続けていく事は難しいこともあると思います。

UNHCRでは家族や友人ともなかなか会えず、途上国での生活や仕事の厳しい環境の中で長く過ごすことも多いです。

苦しくなった時、「なぜ自分はこれをやっているんだろう」と、立ち返ることのできる動機を持つことはとても大切です。

自分自身の仕事に対する原動力を意識しながらキャリアをつくっていくことで、結果として仕事への情熱が生まれ、キャリアを積み重ねていくことができます。

自分が今ここにいるのも、動機が支えてくれているからだと思います。

道は、まっすぐじゃないし、ジグザグです。しかし動機を大切にしていると、大体目指した方向に進んでいくことができるのではないかなと思います。



③ 今回の取材を振り返って。感じたこと。

日本のニュースでも難民のことが出てきたりしますが、なかなか日常で関わることはありません。しかし、私が住んでいる米国では、難民と出会うことやその存在をととても身近に感じます。

実際に難民と触れ合い、ボランティア活動を大学の頃からされて、それをキャリアにしている古本さんを尊敬します。

古本さんの取材から、初めてユニクロの難民に対する取り組みも知ることができました。

古本さんの動機を持つというアドバイスはとても心強かったです。私が特に同感できたことは、道はまっすぐではなく、ジグザグであるということです。

それでも、動機をきちんと持っていれば、きっと自分が楽しめる仕事につけて、毎日充実した生活を送れると思います。



小池絵未 (Emi Koike)

1983年11月7日生まれ。東京都渋谷区出身。

高校から競技チアを開始し、3年連続で日本選手権大会第3位。米国ウェスタン・ケンタッキー大学に進学。大学のチアダンスチームに所属し、2005年全米大学チア・アンド・ダンス選手権で優勝。

その後、NHLナッシュビル・プレデターズ、アトランタ・ホークス、NHLアトランタ・スラッシャーズのダンスチームのメンバーとして活躍。2011年からはNFLのチアリーダーとしてニューヨーク・ジェッツで活躍。

NFL、NBA、NHLの米国3大スポーツリーグでチアリーダーに選出されるのは、日本人としては史上初。2013年チアリーダーを引退し、日本テレビ NFL 倶楽部の現地リポーターとして活動中。ニューヨーク在住現地スポーツリポーターとして、NFLだけでなく、NBA、MLBの取材にも携わっている。

外務省 国際機関人事センターNewsletter

「小池絵未の東京発国際機関探訪」VOL.7

出演: 古本 秀彦 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)

駐日事務所 渉外担当官

取材地: 東京

2017年7月20日発行



外務省 国際機関人事センター

jinji-center@mofa.go.jp / 03-5501-8238

<http://www.mofa-irc.go.jp>



<https://www.facebook.com/MOFA.jinji.center>